

特定非営利活動法人

日本小児循環器学会 理事会 (2021.8-2023.7)

2021 年度第 4 回理事会 議事録



1. 日時

2022 年 4 月 29 日(祝) 17:00~20:10

2. 場所

国際文献社会議室および web 会議 (zoom 使用)

3. 出席者

理事総数: 20 名、出席理事: 20 名

理事長: 山岸敬幸

副理事長: 坂本喜三郎

出席理事: 鮎沢衛、赤木禎治、岩本眞理、大内秀雄、小野博、笠原真悟、城戸佐知子、鈴木孝明、須田憲治、
瀧間浄宏、土井庄三郎、豊野学朋、中野俊秀、檜垣高史、深澤隆治、三浦大、三谷義英、山岸正明

監事: 河田政明、富田英、市田路子(欠席)

幹事: 落合由恵、武田充人、早渕康信、水野芳子

4. 議長

理事長 山岸敬幸

5. 議事の経過の要領及びその結果

定刻に定款第 26 条 3 項により山岸敬幸理事長が議長となり、開会を宣言した。議長より理事会は定款 27 条 2 項の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨の報告があった。議長より本理事会の議事録署名人として城戸佐知子理事、鈴木孝明理事が選任された。また、本理事会は web 会議を併用するため、出席者の発言が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時適切な意見交換が互いにできることを、議長が確認し、議事に入った。

6. 前回の議事録の確認

2021 年度第 3 回理事会議事録の確認が行われた。

7. 審議事項

第 1 号議案: 分科会認定審査施行細則の改訂について(土井理事)

提案内容: 現行の分科会認定基準と実情の齟齬があるため、実情に沿った分科会認定審査施行細則の改訂について承認を得たい(改訂案: 1)代表は本学会評議員 2)参加者数は 30 名以上 3)参加者の相当数が本学会正会員 4)参加者からの参加費や年会費で運営 5)プログラムには一般演題と特別講演等。また、毎年理事会、評議員会への報告、5 年毎の更新手続きが徹底されていないので、周知徹底をしたい。

コメント(瀧間理事、山岸敬幸理事長、赤木理事、土井理事、坂本副理事長)

- ・分科会によっては、代表者が本学会評議員ではない場合がある。
- ・代表者に、小児循環器学会員及び評議員になって頂く方法はある。
- ・他領域との連携は重要なので、分科会会員にメリットがある方法でよいのではないか。
- ・小児循環器学会員が分科会をリードすることを、もっとアピールしてよいのではないか。学会の活性化にも繋がる。

議決結果: 全員一致で承認された。

第2号議案:2024年教育セミナーアドバンスコース世話人について(土井理事)

提案内容:2024年教育セミナーアドバンスコースの世話人を、大阪急性期・総合医療センター小垣滋豊先生に依頼することについて承認を得たい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第3号議案:データベースの二次利用の手引き改訂に関して(土井理事)

提案内容:小児期発生心疾患実態調査データベースの二次利用について、現在公的利用に関する記載が無い。公的利用の申請及び費用の規定を追記し、申請書を修正することについて承認を得たい。ホームページ内の学会に属しているデータについても同様としたい。

コメント(三谷理事、坂本副理事長)

- ・データベースの維持費を二次利用申請費用で捻出する目的があるか。→それは考えていない。
- ・会員からの申請の場合はどのように判断するのか。→会員からの二次利用申請には、別に規定がある。

議決結果: 全員一致で承認された。

第4号議案:課題A「右心室を体心室とする疾患群の遠隔成績検討研究会」の中止について(土井理事)

提案内容:研究責任者の所属施設異動及び倫理審査に長期間を要したことにより、課題Aの研究を開始できていない。研究責任者から中止の申請があった。このことについて承認を得たい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第5号議案*:課題研究設置申請の応募期間について(土井理事)

(*本議案は議案書から漏れていた:本理事会では、本議案を第5号とし、以下議案書の番号を繰り下げて審議した。)

提案内容:課題研究設置申請の応募期間は今まで設定がなかったが、科研申請の結果が出る2月1日から3月末までに固定したい。また、課題研究設置申請の新規応募が無かった場合は応募期間を延長したい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第6号議案:日本不整脈心電学会とのジョイントセッション開催について(土井理事)

提案内容:昨年2月に日本不整脈心電学会学術集会において当学会とのジョイントセッションが企画された。次年度以降相互の学術集会にて企画していくことについて承認を得たい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第7号議案:高尾賞顕彰実施規約について(土井理事)

提案内容:高尾賞顕彰委員会実施規約の(補足)2)について「理事会で審議する」と追記することについて承認を得たい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第8号議案:Young Hearts (AHA)の council member への推薦について(三谷理事)

提案内容:Young Hearts (AHA)の council member について当学会からの推薦を歓迎するとの連絡があった。学会から推薦することについて承認を得たい。

議決結果: 全員一致で承認された。募集時期は約1年後なので選出方法については次回理事会で検討する。

第9号議案: 成育基本法、脳卒中循環器病対策基本法後の学校心臓検診に関する学会横断的検討会の設置について (三谷理事)

提案内容: 2つの法律が制定され、成人病予防、学校教育との連携、学校心臓健診、研究などについての検討会を日本循環器学会等と学会横断的に作りたい。まずは小児循環器学会に理事長直轄のワーキンググループ(WG)を設置することについて承認を得たい。

コメント(山岸敬幸理事長、檜垣理事、土井理事、坂本副理事長)

- ・重要なテーマであり、学会として行政との連携も考えている。具体的にどのような組織を考えているか。→具体案はまだ無いが、対行政は1つの学会のみでは難しいと思う。
- ・WGでは、まず学会としてどう考えるかを検討するのがよい。
- ・学校現場との連携は重要な課題と考えている。
- ・脳卒中循環器病対策基本法では各都道府県に協議会を作るよう求められたが、成育基本法ではまだそのような動きはない。胎児期からを考え周産期小児医療協議会と連携するのか、循環器病対策基本法に関連して日本循環器学会等と連携するのか、視野を広げて検討することも必要ではないか。
- ・成育基本法と児童福祉法で協議会を義務付けられているのは小児慢性特定疾病だけなので、それを上手く使っていくということになるか。
- ・本理事会では細部を検討する時間はないので、まずWGを設置して検討することについて承認を得る。

議決結果: 全員一致で承認された。

第10号議案: JSPCCS in Sapporo での学会特別企画の提案について (三谷理事)

提案内容: 第58回学術集会において、渉外委員会企画として、脳卒中循環器病対策基本法後の地域の循環器病患者支援特別企画を提案したい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第11号議案: 小児心臓手術の全国現状調査(報告義務付)について(山岸正明理事)

提案内容: 小児心臓手術を行っている施設を対象に、施設・医師・術後管理体制・連携病院・疾患別手術数等についての全国現状調査を報告義務付きの学会調査として行いたい。結果については手術成績も含むため非公表としたい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第12号議案: 心臓血管外科学会との合同委員会設置について(山岸正明理事)及び

第13号議案: 心臓血管外科学会 WG 委員の委員会参加について(山岸正明理事)

提案内容: 本学会の次世代育成委員会と日本心臓血管外科学会の小児診療WGを合同委員会とすること、および日本心臓血管外科学会の小児診療WGの委員が次世代育成委員会に参加することについて承認を得たい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第14号議案: 集約化に関するプレス発表について(山岸正明理事)

提案内容: 集約化提言について、論文採択後にプレス発表する方向性について承認を頂きたい。

コメント(三谷理事)

- ・プレス発表は、厚労省で発表するのか、第58回学術集会で発表するのか。→論文採択が間に合えば学術集会で発表したい。間に合わない場合は、再度検討する。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 15 号議案:学術集会抄録集の冊子印刷について(須田理事)

提案内容:学術集会についてポケットプログラムは便利であること、企業への対応として必要なため作成することを確認した。電子抄録とは別に冊子抄録集を学会費で作成しており 50 万円程度かかっている。今までは学術集会会長の専権事項として毎年作成されてきたが、昨年の販売実績はない。第 58 回学術集会において、冊子抄録集を作成するかどうかは学術集会会長の専権事項とすることについて承認を得たい。

コメント(土井理事、山岸正明理事、須田理事、鈴木理事、山岸敬幸理事長、事務局、富田監事)

- ・学術集会に来場する際に購入希望があるものとする。第 58 回協賛企業が必要かどうかは現在不明。
- ・しかし、実際には第 56 回学術集会において、企業はポケットプログラムがあれば冊子抄録集への掲載について希望はなかった。
- ・抄録集は web で読めれば不要だと考える。
- ・論文になっていない冊子抄録を当局への申請の際の資料として使用したことがある。⇒ 現在は Hp で過去の抄録集を閲覧できるため、冊子体の保存は不要。
- ・冊子抄録集を、学会費予算と学術集会予算どちらで作成するのか。
→抄録集冊子は学会予算で作成し、COVID-19 流行前の現地開催時には会員・名誉会員による購入が 10-12 冊程度あった。

→本日の審議は、今回冊子抄録集を作成するかどうかに絞り討議された。その結果、現状維持(抄録アプリとポケットプログラムは毎回作成。冊子抄録の作成については学術集会会長が決める。資金源は小児循環器学会とする。)とすることが確認された。次回以降の理事会で、冊子抄録作成資金源に関して『小児循環器学会』のままか、『学術集会』に変更するかを検討する。

議決結果:多数の賛成で承認された。

第 16 号議案:社会保障制度に関する会員への教育機会提供について(檜垣理事)

提案内容:今後の学術集会において、社会保障制度について現行・変更点などについて学会員への教育機会を提供することについて承認を得たい(専門医単位の付与など、具体的な方法については今後検討する)。

議決結果:全員一致で承認された。

第 17 号議案:58 回学術集会時の「救命処置の講義と実技」実施について(檜垣理事)

提案内容:蘇生科学教育委員会企画として第 58 回学術集会において「救命処置の講義と実技」を予定している。この際に使用する大型モニターの費用を含め承認を得たい。

コメント(土井理事、山岸敬幸理事長、事務局)

- ・企画は承認されている。大型モニターの費用については委員会企画であるので学会予算でいかがか。
- ・Push Project から費用支出も可能と情報がある。前回実施した第 55 回学術集会では学会からの支出はなかった。
- ・Push Project から支出できなければ学会予算で支払うことで審議する。

議決結果:全員一致で承認された。

第 18 号議案:学校と教育の連携委員会への協力員追加について(檜垣理事)

提案内容:学校と教育の連携委員会に、会員以外の協力委員 4 名(小児科医 1 名、教員 3 名)に加わって頂くことの承認を得たい。

議決結果:全員一致で承認された。

第 19 号議案:HBD for children 委員会の設置について(三浦理事、山岸敬幸理事長)

提案内容:HBD for children の活動推進のため、JCIC と合同で委員会を新たに設置したい(委員長:山岸敬幸理事長)。

日米共同の活動であり、AMED 研究への応募も検討しており、他委員会と重複して委員を依頼した会員も多く、重要な活動と考えている。委員会設置の承認を得たい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 20 号議案: 各エリア副担当理事を広報担当者とすることについて(山岸敬幸理事長)

提案内容: 各エリア担当委員会の広報活動 (HP 掲載等) について、各エリア副担当理事を当該エリアの広報窓口となって頂くことの承認を得たい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 21 号議案: 学会の理念について(山岸敬幸理事長)

提案内容: 理事会での懇談及び理事の意見を伺い、理念を作成した。内容について承認を得たい。承認後 HP 掲載予定である。

議決結果: 全員一致で承認された。

8. 報告事項:

・理事長報告

1. 持ち回り理事会報告: 前回理事会より実施なし
2. 要望書等提出状況: 前回理事会より特になし

・会長報告

1. 第 58 回学術集会準備報告(土井庄三郎会長)

演題募集を 2 回延長し、750 演題が集まった。開催形態としては原則現地開催で 7 会場設置し、第 1 会場は WEB からの登壇も可能とする予定。ポスター発表はディスカッション形式とする。大型連休後から参加登録を開始する。学会前日の理事会、評議員会、会長招宴は現地参加の形で行いたい。理事会の皆様にもぜひ札幌にお越しいただきたい。

札幌保健所健康企画課より、多領域セッションを聴講したいという依頼があり、会員以外の参加についてご検討いただきたい。具体的にはネームカードを会員と別にし、参加可能セッションを限定して参加していただくことを考えている。

海外招請者に対する渡航費を含めた謝礼については例年 1 名につき 3,000 ドルという取り決めがあるが、コロナ禍やウクライナ情勢により航空運賃が高くなっており AHA からの招請者 2 名より 5,000 ドルを提示されている。WEB 登壇であれば 1 名につき 500 ドルであるが、この時期なので全員を WEB 登壇とする考えもある。会長企画セッションとして 4 名、学会企画セッションとして 8 名 (AHA2 名、AEPC3 名、TSPC1 名、YIA2 名) の予定である。会長側の招請者は交渉の上、出来る限り現地からご講演いただきたいと考えている。

2. 第 59 回学術集会準備報告(鈴木孝明会長)

運営は日本コンベンションサービスに依頼する。会場はパシフィック横浜ノースで行う。趣意書は土井会長の学会が終わってから各企業に送付予定である。現地のみでオンデマンドなしの場合、参加数が減らないかと危惧される。現地のみで開催したいが、基本的には WEB 登壇は残すことになるだろう。

・各エリア委員会報告

● 学術エリア・渉外エリア

外科系教育セミナーは Webinar を中心に3回/年のペースで実施しており、若手からの反応も良好である。これからも今の形式で継続的に実施していく(中野理事)。

渉外委員会;AEPC;ジョイント企画、YIA セッションは、MP4+Live QA で実施する予定である。(三谷理事)
ガイドライン委員会;ガイドライン HP の改定について関連委員会と進めている。(豊野理事)

● 次世代エリア(岩本理事)

次世代委員会;小児心臓血管外科生涯育成プログラム WG では、5個の活動項目を検討しほぼ完成させている。第58回の学術集会で“次世代育成シンポジウム”が計画されている。

多領域専門職委員会が3題のセッションの企画運営を計画している。

働き方改革委員会では、WEB アンケート調査を実施し、7月の学術集会では委員会企画セッションを開催予定で5人の演者が決定している。

● 専門医制度エリア(鮎沢理事)

小児科学会の小児領域サブスペシャリティ専門医制度連絡協議会を通じて、レビューシートを2月中旬に日本専門医機構へ提出した。小児循環器専門医は指導医の体制が整っていないことが課題である。サブスペは3領域のみが認められた(小児科は小ぶりにならざるを得ず、入らなかった)。

地方会認定委員会を新しく発足させ、リーダーは藤原優子先生にお願いした。2018年以降の資格更新書類を審査中である。

専門医試験委員会では、メンバーの入れ替わりもあり、本年度は新規問題作成を行わず、過去のプール問題から出題する予定。今年の試験開催方法に関しては検討している。

専門医カリキュラム委員会では研修記録に関して、専門医研修手帳作成、特に電子化についてかなり具体的な案が提案された。

● 学会誌エリア(大内理事)

和文誌の方は資料の投稿数などを参照されたい。英文誌の方が問題で、IF 取得を目標とした場合には投稿数増加とその質を確保のため専門医エリアとの連携が必須と考えられ、慎重かつ大胆な対策が必要と考えられる。学術集会への海外招待講演者への投稿依頼(謝金付き)も検討中。専門医エリアとの拡大委員会も必要か。

● 社会制度エリア

移植委員会(笠原理事);重症心不全の相談窓口を version-up し、充実したので、是非この窓口にご相談頂きたい。コロナ禍で移植待機患者が増加、移植が減少し、明美ちゃん基金で残金がでた。EXCOR の駆動装置の5台を会社が寄付し、実施施設においては、1台の購入のみで実施可能となる見込みで整備を進めている。

鈴木理事より、VAD 協議会で、循環補助使用中の NYHA クラスと profile 分類の整合性を整理した。メトロニック社の HVAD はアメリカで販売しなくなった。特例措置として日本に輸入済みだったものは使用すると

いう特別許可も終了した。

学校心臓検診委員会(檜垣理事);学校管理指導表が2020年度版としてversion-upされている。

小児慢性・難病対策委員会(檜垣理事);主治医から学校への情報共有について、診療情報提供できる仕組みができていますが、心疾患、小慢、学校生活管理指導表などの実際の運用について、精査して情報を共有していく。(小児慢性特定疾病の児に対する支援に関わる主治医及び学校医等との連携強化)

- 保険診療エリア(三浦理事)

資料の通り。

- 医療安全エリア(瀧間理事)

今年4月に個人情報保護法が改正され、個人情報の取り扱いが厳しくなっており、画像を用いた症例報告も患者にカルテに書いて同意を得る必要があるかも知れず、今後、注意が必要である。厚労省のガイドラインがまだ未発表であるが、小児循環器学会でも注視していく必要があり、情報収集を継続していきたい。

- 未来予想図委員会(山岸敬幸理事長)

・成育基本法と脳卒中循環器病対策基本法に関わる参議院議員(全国区)で小児科専門医、そして循環器内科を研修されて認定内科医を取得されたご経歴を持つ自見はなこ先生が、日本小児科学会・分野別シンポジウム(日本小児循環器学会企画)で招待講演された。「家庭こども庁」創設に向けては、自見先生のこれまでおよび今後の活動が極めて重要であることが認識された。自見先生は、循環器、小児科、政治の橋渡しとして、非常に重要な人物である。自見先生は、今年の7月に参議院選挙を控えており、今後の活動に期待したい。

・NPO 法人を対象に企業との match-up を企画する会社(Tie up promotion)から当学会に登録の案内があった。産学連携として、このような機会を利用することは今後益々必要になってくると思われ、次回以降の理事会で慎重に検討していきたい。

9. 懇談事項 なし

10. 閉会

以上をもって本日の議事を終了し、山岸敬幸理事長から議事への協力に謝辞があり、閉会した。

上記の議事の経過及び結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人がこれに押印する。

2022年4月29日

議長

山岸 敬幸

議事録署名人

城戸佐知子

議事録署名人

鈴木 孝明

(以下余白)

(以上)